

1. 題材について

(1) <児童の実態>

本学級の児童は、「努力 絆 根性 みんなはひとりのために 一人はみんなのために」を合言葉に、学級の絆づくりを意識して生活している。特に学級通信のタイトルでもある「ALL 4-1 (All for one)」は、学級のキャラクター名や旗のデザインにも取り入れる等、強く意識している様子が見られる。しかし、自分の気持ちばかりを主張して相手の気持ちには思いが及ばず、言い合いになったり、強い口調で注意をしたりする児童が多い。学級会においても、自分の意見が通るか通らないかを勝ち負けで判断してしまう児童が見られる。

(2) <題材設定の理由>

本題材は学級活動(2)の「イ よりよい人間関係の形成」に関わるものである。この内容は、自他の個性を理解して尊重し、よりよい人間関係を形成していくための取組である。児童の実態から、互いに協力し合って温かな人間関係を形成するためには、相手の気持ちを考えるスキルを身につけながら、友だちとの関わり方の自己の課題に向けて粘り強く実行していくことが重要であると考へた。「友達との関係が最優先」であるこの時期に、ソーシャルスキルトレーニングと関連付けながら具体的な関係作りを学び、実践していくことで、互いのよさを見付け、違いを尊重し合い、仲良くしたり信頼し合ったりして生活することのよさを理解することができるよう、本題材を設定した。

2. 事前の活動

目指す児童の姿と評価方法

- ・アンケートを記入し、「友だちへの声かけ」に関わるこれまでの自分の取組について考えることができる。

<アンケート調査>
【思考・判断・表現】

児童の活動(●)及び指導上の留意点(○)

- ・当日の題材について知る。
- ・題材に関わる課題を確認し、一人一人がアンケート調査に取り組む。
- 題材について問題意識を高めておくため、以前行ったふわっと言葉・ちくっと言葉の実践状況をまじえながら周知しておく。
- 年間通しておこなっていく、「温かな心を育てようプロジェクト」の第二弾であることを児童に伝え、問題意識の共有化を図る。
- 児童の問題状況をアンケート調査で確認しておき、資料をまとめる。

事前アンケート

友だちへの声かけについて

- 友だちにいやなことを言われたことがありますか。
- 友だちにいやなことを言ったことがありますか。
- ふわっと言葉、ちくっと言葉の学習後、意識して取り組んでいることがありますか。
- ふわっと言葉ウィークに取り組んでよかったことはどんなことですか。

※一部選択式。

3. 本時の活動

目指す児童の姿

- ・さまざまな場面での相手の気持ちを想像し、相手の気持ちにそった声のかけ方を理解している。 <カード・発言>【知識・理解】
- ・自分の課題を踏まえた上で、集団思考を生かして相手の気持ちにそった声のかけ方についての具体的な行動目標を意思決定できる。 <カード・観察>【思考・判断・表現】

<指導過程>

1. <実態や現状の把握>

アンケートから実態を把握して、現状を把握することができるようにする。

- ・前回の学習を振り返る
- ・アンケート結果を確認する
- ・学級の数値から問題があることに気付く

2. <原因の追求>

ソーシャルスキルトレーニングの演習から解決の必要性を実感することができるようにする。

- ・失敗してしまった友だちへの2種類の声かけを見て、言われた人の気持ちやその後の2人の状況を考え、発表する
- ・状況を考えずに思ったことを口に出すことで相手を傷つけることにつながることに気付く

3. <解決方法等の話し合い>

相手の気持ちにそった声かけを実演することを通して、友だちへの声かけのポイントを見つけることができるようにする。

- ・相手の気持ちにそった声かけを考え、グループで発表したり、全体で発表したりする。
- ・発表したことをもとに、友だちへの声かけのポイントを全体で話し合う

4. <個人目標の意思決定>

実現可能であり、自己評価できる具体的なめあてを立てることができるようにする。

- ・今後、どのような声かけをしていくか自己評価できる具体的なめあてを立てる (どのような場面で、どのような気持ちの友だちに、どう声をかける)
- ・数名の友だちのめあてを聞く

4. 事後の活動

目指す児童の姿と評価方法

- ・児童自身が意思決定したことを確実に実践している。
- ・実践が習慣化するように、帰りの会で自己評価をおこなうとともに1週間経過したら全体でふり返りを行う。

児童の活動(●)及び指導上の留意点(○)

- ・「温かな心を育てようプロジェクト」強化週間として、友だちの気持ちを考えた声かけを意識して取り組む。
- ・各自、毎日できた声かけをプロジェクトカードに記録する。
- ・各自での取組をしながら、教室の「温かな心コーナー」にも実践シールを貼っていく。
- ・強化週間での実践終了後に、全体的な振り返りを行う。
- 個人目標に対しての自身の取組はどうであったか気になる児童を中心に丁寧なふり返りをさせたり助言したりする。
- 期間終了後も継続した実践となるよう助言したり、保護者へ学級通信で知らせたりする。
- 友だちから言われた温かな声かけを発表する場を設けて、継続化に向けて意欲の向上を図る。

<よりよい意思決定に向けて>

- ・具体的な場面における声かけを自分で考え演じるだけでなく、友だちの発表を見ることで、様々な考えや声かけのパターンがあることに気づかせる。
- ・児童から出されたよい声かけを分類して、実現可能である個人目標を立てる際の参考とするよう助言し、十分な時間を確保する。

7/2 温かな心を育てようその2 めあて (きずなを深める声かけを考えよう)

つかむ さぐる 見つける 決める

相手のことを考えずに言うと、相手をきずつけてしまうかもしれない

声かけのポイントは、まず相手の気持ちを考えること!!

嬉しい時 失敗した時

うれしい ほめてほしい

がんばって練習していたのに

よかったね すごいね だいじょうぶだよ

がんばった成果だね 次がんばろう!

友だちが失敗した時には、元気が出るように大丈夫?と声をかける

友だちがいいことをした時には、温かい気持ちになるようにありがとうやすごいねと言う

4-1 温かな心の実

グラフ① 「友だちにいやなことを言われたことがありますか。」

グラフ② 「友だちにいやなことを言ったことがありますか。」

感じ方に差がある

もしかすると気付かないうちにきずつけているかも